

このコーナーは、  
営農指導員から、農業のちょっと  
したコツを、お知らせします。

農業振興課農業振興係☎0824-73-1131

**本格的な寒さの前に防霜・防寒  
対策を!**

**野菜作りの  
ワンポイントアドバイス**

営農指導員 **若山 譲**

野菜は、気温の低下とともに生育にブレークが掛かります。また、菜園に残っている野菜は、収穫を急ぐか、残るものには寒さ対策が必要です。

防霜・防寒対策には、葉の結束（ハクサイ）、株元への土寄せ（ダイコン）、被覆資材による防霜・保温（主に薹葉野菜）などがあります。

**「※べた掛け」資材のポイント**

※作物や畝の上に直接被覆資材を掛けた栽培する方法

**①ホウレンソウ・コマツナの被覆**

いずれも耐寒性が強い作物ですが、生育が遅れている場合は、不織布を直接掛けた生育の促進を図りましょう。不織布は、株の伸長を考慮して、たるませて掛けるようになります。

収穫期が近づいたら、日中は被覆を外して、直射日光を十分に当てましょう。

**②プロツコリーの被覆**

晩成種の収穫はこれからです。  
寒さで葉が傷まないよう、また、ヒ

ヨドリなどによる食害を防ぐためにも、不織布または寒冷紗（野菜などを覆う薄い布）の浮き掛けを行いましょう。キヤベツ、ハクサイなども同様の対策を行います。

**③レタスの被覆**

玉レタスは、不織布をべた掛けしても、凍結による腐敗を防ぐことは困難です。

リーフレタスは玉レタスよりも耐寒性が強く、外側の葉をむく程度で年内の収穫が可能です。

**④サヤエンドウの被覆**

寒冷紗の被覆を行うことで、寒さによる生育不良なども少なく、生育も揃うようになります。

スナップエンドウ、ソラマメでも同様の効果があります。

**⑤ニンジン、ダイコンの土寄せ**

ニンジンは根の上部が露出していると寒さで凍り傷みます。3月まで収穫する場合は、株元に軽く土寄せをします。

ダイコンは凍結すると表皮が剥離するので、株元に土寄せするか、抜き取ったダイコンの葉を10センチ程度残して、穴を掘ったところに縦に並べて土を掛け貯蔵します。丸ダイコンやカブは厳寒期に凍結して割れることができます。

**本年の花栽培の振り返り**

**花作りの  
ワンポイントアドバイス**

営農指導員 **永奥 はじめ**

**1 過酷な気象**

本年の気象は例年以上に過酷で、花卉の生育に重要な降水量と最高気温は、想定外の状況が続きました。

特に雨が7月上旬から下旬までの1カ月間ほとんど降らず、畑がカラカラになる一方で、9月はほとんど毎日のように降雨が続きました。

また、最高気温も6月下旬から9月中旬まで連日30度以上の猛暑が続きました。

このように、花卉にとっては過酷な気象で、管理する人にとっても大変な1年でした。

**②病気の状況**

害虫の発生とは逆で、気温が高く雨が少ない年には病気の発生が少ないとされています。

それでも部分的にうどんこ病や白さび病、灰色かび病などの発生が見られました。

害虫の防除とは異なり、どの病気にについても、発生前の病斑（植物の葉や茎に現れる、病気によって生じる斑点や症状のこと）が目に見えるまでの予防的防除を行うことで、被害の減少につなげるこ

**2 花卉への害虫、病気発生**

**①害虫の状況**

一般的に、気温が高めで、雨が少ない年には害虫の発生が多いといわれていますが、本年もさまざまな害虫が発生しました。

特に本年は、ハスモンヨトウ、オオタバコガやコナガ、ダニ類の発生が多く見られ、害を受けた花卉が目立ちました。

このように、本年は各種害虫が多く発生しましたが、基本的な対策としては、害虫の発生を早めに見つけて、早めの防除を行うことが大切です。

